

日本薬学生連盟
学生のページ

薬学生への意識調査Part. 2

薬学部6年制教育がスタートしてから11年、新コアカリキュラムがスタートしてから2年が経ちました。日本薬学生連盟では、2016年秋に全国の薬学生60人を対象として、今の薬学教育がどの程度臨床を意識しているのかという点に着目した意識調査を行いました。

今回調査した項目は「自分が思う薬剤師の役割を書く」「医師・薬剤師・看護師・理学療法士・作業療法士において自分が考える立場的順位をつける」「示した19のSBO項目の中で、自分が薬剤師にとって必要であると考える項目を全て選択する」の3つです。

医師が医療の頂点であると考える人はやはり少なくありません。当然、医師より薬剤師の立場が上になればいいということはないと思います。しかし、実に75%もの薬学生が立場的順位について、医師を1位としていました。全業種について平等であると回答したのは全体のわずか8%でした。確かに日本において、例えば処方箋を書くことができるなど、権限が最も大きい医療業種は医師でしょう。

しかし、国民皆保険制度が不十分であり、高額な医療機関にかかる前に薬局等へ行く傾向のあるアメリカにおいて薬剤師の役割や権限が大きいのは分かりますが、日本と同じく国民皆保険制度が達成されているカナダやイギリスにおいても、薬剤師の権限は幅広いです。

では、いったいどこからこの違いが生まれるのでしょうか。それは、そもそも薬学部入学からではないでしょうか。日本のように高校を卒業して、すぐ薬学部へ入学できたり、個別の学力試験のみで大学へ入学できる国は多くありません。また、近年は以前と比較して医学部進学の見込み度がかかなり高くなっており、その併願先として薬学部が選択されることが多くあります。医学部をあきらめて薬学部へ入学する学生がそれなりにいるのです。こうした入学時の入試難易度の違いも一因となっているのではないのでしょうか。しかし、日本においても大きな変化がありました。旧4年制教育から現在の6年制教育への改革です。実習期間が増加したりC B TやO S C Eが導入されたりなど、カリキュラムは臨床を意識したものになっています。

ここで、最初に挙げた立場的順位について学年別に見ていきたいと思えます。医師に1位をつけた1年生は79%、2年生は75%、3年生は63%でした(※4年生以上は回答者が極端に少なかったため割愛。以下、同)

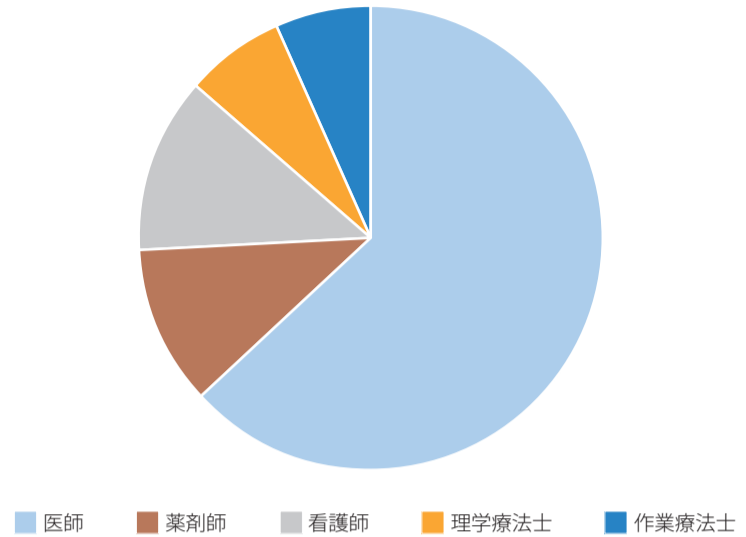
同時に、薬剤師に必要なと思うSBO項目を選択する質問においても、他職種連携や災害時医療など他職種との関係を意識する項目の選択割合が1年生76%、2年生88%、3年生100%と、学年が上がるにつれて上昇していました。これは、現行の6年制教育において医療従事者としての薬剤師、チームの一員として薬学的知見を備えた薬剤師として、患者のために医療を提供するという気持ちが学年が上がるにつれて生じてくることを表しているといえます。

私自身まだ1年生であり、現在は化学・生物・物理など基礎科目を中心に学んでいますが、1年生から早期体験学習などを通して病院・薬局・企業で働く薬剤師の姿を自分の目で見るができることから、カリキュラムの内容がより専門的になり、低学年時から薬剤師のあり方やその専門性について考えることのできる環境が備わっていることがうか

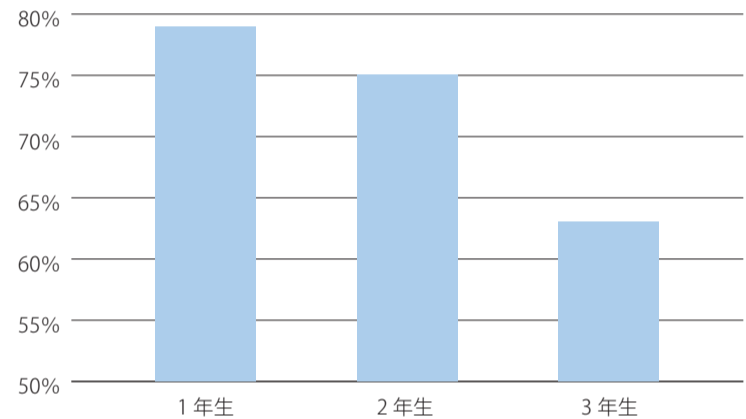
アンケート項目

次に挙げる医療業種の中で、立場的順位が高いと思う順に数をつけてください。例えば、最も高いと思う業種には1を選択してください。(医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士)

医療において最も立場的順位が高い職種



医師に1位をつけた人数の学年別比較



がえます。

実際、それぞれが思う薬剤師の役割を書いてもらう質問においても、1年生のうちから多くの方が患者とのコミュニケーションや疑義照会、薬の専門家として他の医療業種へ助言を行うことなど、対物業務でなく対人業務を重視したことを回答していました。

薬学教育は2年前に新コアカリキュラムがスタートしたように、科学技術の進歩など時代に応じて日々変化しています。大学の試験をパスし、国家試験に通るさえすれば後はよいというような絶対的なものではありません。在学中にも、世の中は変化で満ち溢れています。せっかく臨床に対する意識を低学年のうちから持つ機会があるのですから、大学内の活動にとどまらず外へ飛び出して、実際に現場を見に行ったり話を聞きに行ったりという姿勢がより重要になってきていると思えます。

(明治薬科大学1年 岩崎良太)

あなたの、 かかりつけ薬局へ。

あなたに寄り添い、健康をささえる
“いつもの窓口”になります。

阪神調剤ホールディング株式会社